

課題名 江戸城大広間の復元と模型製作

指導教員 中西 章 教諭

●研究の目的

江戸時代書院造の代表的な建物である江戸城大広間の復元及び模型製作を行った。江戸城の大広間は将軍による大名の謁見などが行われた場所であり、江戸時代におけるもっとも格式のある建物である。江戸城大広間は、現在は失われており、図面などの資料をもとにそれを再現することで当時の建築を知ることを目的とする。

●研究の方法

江戸城は、幾度もの改築を経ており、当初の姿は不明である。今回は時代を絞って図面資料が多く残っていた万延度の江戸城大広間を対象とした。

平面図、一部の立面図と断面図から、柱の位置や全体の姿、上段・中段・下段・縁側などの配置や部屋の特徴や違いを検討し、不鮮明な部分は万延度以前の図面や、二条城大広間など現存する建物を比較し推測した。

模型は、縮尺 1 / 50、

柱・長押には木、床・壁にはスチレンボードを使用。

内部の部屋の様子をあらわすため、模型には屋根、天井を設けなかった。

●万延度江戸城大広間とは？

万延度の江戸城は万延元年(1860)に造営された最後の江戸城である。そもそも江戸城の焼失が改元の原因であり、その時建て替えられたのが、研究対象の万延度の江戸城である。

大広間は本丸御殿中で最高の格式と最大の規模を有する御殿で、東西方向に 50m、約 500 畳にも及ぶ広大な建物である。焼失した寛永 17 年(1640)の大広間には大屋根があったが、再建された万延度の江戸城では中央に中庭が設けられ、屋根を低くするようになった。

●考察

江戸城大広間の主な部屋は上段・中段・下段・二之間・三之間・四之間であり、西北から反時計回りにコの字型に配置されていた。南東の南側には中門が、東側には御駕籠台があり大広間の権威を象徴している。また南面の向かい側には表能舞台があったとされる。

上段には書院造で一般的な床・棚・書院・帳台構の座敷飾りが定型通りに配置されてお

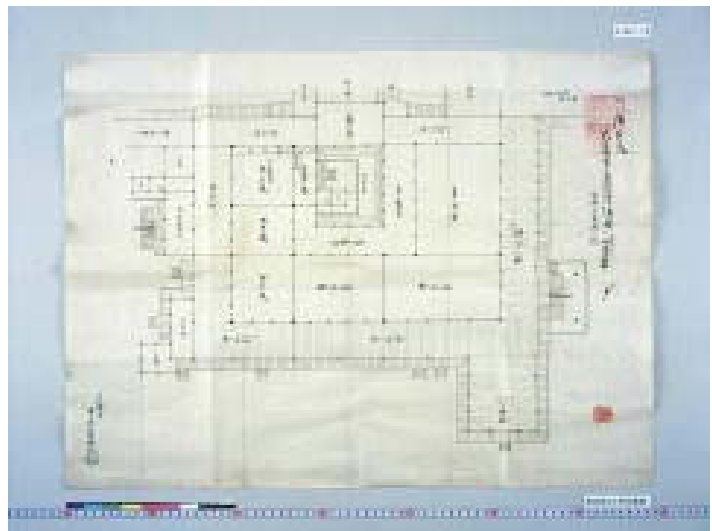


写真 1 万延度江戸城大広間の平面図

り、将軍の権威を示している（写真2）。また、上段・中段・下段にはそれぞれ段差があって上段に近づくほど床が高くなっており、上段に座る将軍と中段・下段の大名との身分差を表現している。下段は他の広間と同じ高さで入り側との間にも段差がある。

コの字型に配置された部屋で囲まれた大広間の中央には中庭があり、各部屋への採光が考えられていたとみられる。

●まとめ

万延度の江戸城大広間を復元した模型は写真のようになった（写真3）。江戸城の大広間は、将軍の権威を示す場所として床の段差や座敷飾りなどいろいろな工夫がされていることがよくわかった。また立体的になったことで図面だけではわからなかった江戸時代の広間の雰囲気を感じることができた。

●参考文献

- ・東京都立図書館貴重資料画像データベース http://metro.tokyo.opac.jp/tml/tpic/edo_itemfind.cgi
- ・日本建築学会 編『日本建築史図集 新訂第二版』
- ・大和 智『日本の美術2 No.405 城と御殿』
- ・平井 聖『図説 日本住宅の歴史』



写真2 模型の上段部分

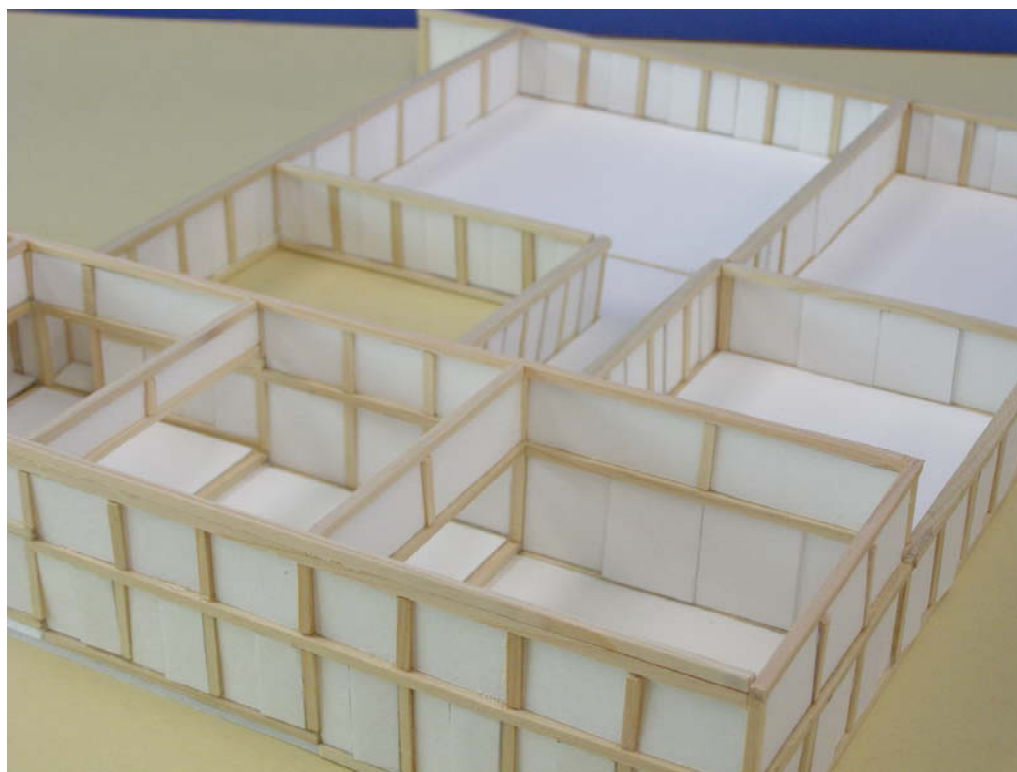


写真3 模型全景（手前左から上段、中段、下段）